



理念	現場運営	知識	合計
/18	/20	/62	/100

所属施設： 所属部署： 受験番号： 氏名：

ケアマイスター試験を受ける前に

ケアマイスター制度には、スタッフ 1 人 1 人に「自ら考える力を身につけてほしい」という思いが込められています。そのため、問題には自由記述で解答するものが含まれています。できる限り自分の考えを書き込めるように、問題文にしっかりと目を通し、時間配分を意識して試験に取り組んでください。 [* 漢字間違いは△](#)

《法人理念に関する問題》 18 点

1. 社会福祉法人ケアマキスでは、「質の高いケアをめざし、自らの成長をめざす人」を求める職員像としています。介護現場における人材育成は職員のスキルや意欲の向上だけでなく、ご利用者へのより良いケアの提供につながります。またスタッフ教育の一環としてケアマイスター制度を導入し、各スタッフがスキルアップできるよう取り組んでいます。(10)

- (1) あなたは特別養護老人ホームの中堅職員（ケアマイスターゴールドクラス）として、現場ケアの質の向上や後輩育成、職場改善に関わる役割を期待されています。あなたが「質の高いケアを継続するために現場で果たすべき役割」を 2 つ述べなさい。(配点 2×2)

- ・現場の模範となるケアの実践、根拠に基づいたケアを実践し、他職員が「真似したい」と思える行動を示すことで、現場全体のケアの質向上に貢献します。
- ・後輩育成・職場の橋渡し役、新人や経験の浅い職員の相談役となり、不安を受け止めながら成長を支援し、現場と管理者をつなぐ存在として行動します。
- ・多職種連携のハブとしての役割、利用者の状態変化をいち早く察知し、看護・相談員・リハ職などと情報を共有し、チームとして最適なケアにつなげる役割を担う。
- ・現場の課題を可視化し改善につなげる役割、日々のケアの中で気づいた小さな課題を放置せず、改善提案としてまとめ、会議やミーティングで発信することで、職場全体の質向上に貢献する。
- ・利用者の尊厳を守る文化の推進者、「その人らしさ」を大切にするケアを率先して実践し、職員全体に尊厳あるケアの重要性を浸透させる。
- ・「できないこと」ではなく「どうすればできるか」を考える前向きな姿勢でチームを支える役割。
- ・ICT導入など新しいことに対し、否定的な意見を調整しつつ、メリットを現場に浸透させる推進役としての役割。
- ・「質の高いケア」という抽象的な目標を具体的な動作レベルに落とし込み、後輩に「こうありたい」と思える姿勢を示す役割。

- (2) ケアマイスター制度を「個人の資格」で終わらず、法人・施設全体の力として活かすために必要なことを3つ述べなさい。(配点2×2)

- ・学びを現場に還元する意識、取得した知識や技術を自分だけのものにせず、後輩指導や勉強会を通して共有します。
 - ・成長を支える文化づくり
- 挑戦する職員を応援し、失敗も学びとして受け止める風土をつくることが、継続的な人材育成につながります。
- ・法人理念と結びつけた実践、ケアマイスター制度を法人理念と結びつけ、「質の高いケア」「自ら成長する姿勢」を体現することが重要です。
 - ・ケアマイスター同士の横断的な学習コミュニティの形成、施設間で情報交換会や事例検討会を行い、学びを法人全体で共有することで、組織全体のケアレベルを底上げする。
 - ・キャリアパスとしての位置づけの明確化、ケアマイスター取得が昇格・役割拡大につながる仕組みを整え、職員の成長意欲を高める。
 - ・利用者・家族への信頼向上につなげる活用、ケアマイスター取得者が説明や相談対応を行うことで、専門性を示し、施設への信頼度を高める。

- (3) 新人指導にあたっている中堅職員は指導を通して学べることであればどのような要素か。1 つ述べなさい。(配点 2×1)

--

- ・人に教えることで自身のケアの根拠や考え方を整理する機会となり、専門性や指導力の向上につながるため。



- ・新人の視点や疑問に触れることで、自分の当たり前を見直し、ケアの質を高めるきっかけになるため。
- ・新人の成長過程に関わることで、自身の関わり方や指導の成果を振り返る機会が増え、マネジメント力や人材育成の視点が身につくため。
- ・新人からの質問や疑問に答えるために、知識や根拠を学び直す必要が生じ、専門性の再確認とスキル向上につながるため。
- ・新人指導を通じて、多職種や管理者との連携が増え、現場全体を俯瞰して考える力が養われるため。
- ・「自分の当たり前が、相手の当たり前ではない」と知ることで、自分の癖や考え方を客観的に見つめ直すきっかけになり、多角的な視点が養われる。
- ・相手のモチベーションを把握し、成長を促すプロセスは、「人を動かす力」の基礎となり、自らの影響力の結果として目に見えるため、大きな達成感を得られる。

2. 人材不足が深刻化する中、高齢者施設が地域や家族と連携し、「開かれた施設」として支え合いの仕組みを構築する地域が増えています。施設と地域との連携について、法人理念「千年企業 私たちは、ご入居者様、ご家族様、地域社会とともに歩み、役立ち続ける責任があります」を踏まえ、以下の問題に答えなさい。（8）

(1) あなたの施設で行いたい「地域住民が参加したいと思える取り組み」を考えて答えなさい。また、その取り組みが地域にどのような影響を与えるものになってほしいか答えなさい。（配点 2×2） ※既に実施していることは除く。

取り組み内容	<提案例> ・健康サロン系（介護予防の体操、脳トレ、身体によい料理教室、介護や認知症の勉強会） ・多世代交流、伝承系（利用者が経歴を活かして、地域の親子、学生が施設利用者から学べる場の「〇〇教室」） ・イベント系（地域対抗運動会、3 世代フリーマーケット、文化発表会） ・地域との危機管理連携、防災訓練（多世代、地域合同） 等
与える影響	<採点ポイント> ・施設という閉じた場所が地域の拠点となる。 ・孤立防止と多世代共生 ・業界への信頼が得られる。 ・地域の介護力向上につながる。 ・世代間の交流ができる。 ・福祉人材の創出、雇用や役割の機会提供 ・災害時の相互支援 ×施設側の売り上げにつながる内容 ×施設側のメリットのみの内容

(2) 上記のような高齢者施設と地域との連携の取り組みが成功するためには、計画的かつ段階的なアプローチが必要です。あなたが（1）で考えた取り組みを行っていく際に踏むべき段階をステップ 1～3 とした場合、ステップ 2～3 の空欄にあてはまるテーマと具体的な内容を記入しなさい。（配点 2×2）

段階	テーマ	内容
ステップ 1	地域の現状とニーズの調査・分析	施設が連携を行うべきターゲットと、地域が抱える課題、そして施設に期待されている役割を明確にする。

↓

ステップ 2	施設が提供できることや連携目標を明確にする。	・地域ニーズを踏まえ、施設として何を提供できるか、連携を通じて何を達成したいかを定義する。 ・施設が準備できる資源（場所、時間、人、技術）を洗い出し、メニューを作成する。 ・連携する目標を設定する（開催頻度、参加人数、誰に何のために使って頂くのか 等）
--------	------------------------	--

↓

ステップ 3	関係者への提案と合意形成 ×実施後の取り組み（反省会）	・施設が作成した連携メニューを、自治会や民生委員などの地域のキーパーソンに提案する。 ・施設の掲示板や、地域の会報、回覧板、SNS などでの広報を行う ※ステップ 2 とステップ 3 が同じ系統（両方準備系 等）は片方のみ○
--------	------------------------------------	---

<その他のステップ>

- スモールスタート、段階的に実行する ……
- ・最初から大規模な活動は目指さず、小さな成功体験を積み重ねることから始める。
 - ・負担の少ない単発イベントからの連携、参加者にアンケートをとりブラッシュアップしていく。
 - ・活動の様子を写真付きで報告し、次の参加に繋げる
- 評価と継続的な改善 ……
- ・活動を単発で終わらせず、継続し定着させるための仕組みを作る。
 - ・集めた意見をもとに、より地域に定着する形に改善していく。
 - ・協力してくれた地域の方やボランティアに対して感謝を伝える場を設ける。



《現場運営に関する問題》 20 点

1. 事例を読み、問題に答えなさい。

あなたは、介護老人福祉施設でユニットリーダーを務める介護職員です。ご利用者の A さん（90 歳・女性）は、認知症と心不全を併せ持ち、最近体調の変動が大きくなっています。医師からは「急変の可能性があるため、日々の観察と多職種連携が重要」と説明を受けています。

A さんは不安が強く、夜間に不穏になることが増え、職員への訴えも多くなっています。ご家族は「できる限り施設で穏やかに過ごしてほしい」と希望しています。

A さんが安心して生活できるよう、「身体的な安定を図る対応」と「安心感を高める関わり」について、それぞれ具体的に 2 つずつ答えなさい。（配点 2×4）

身体的な安定を図る対応：

- ・バイタルサインや表情・動作の変化をこまめに観察し、異常があれば看護師・医師へ速やかに報告する。
- ・夜間の不穏を防ぐため、排泄や体位、室温・照明など生活環境を整える。
- ・看護師や医師と情報共有を行い、体調変化に応じたケア内容の調整を行う。
- ・食事量や水分摂取量を把握し、無理のない摂取方法を検討・実施する。
- ・転倒リスクを下げるため、ベッド周辺や動線の環境整備を行う。
- ・疲労が蓄積しないよう、休息時間を確保し生活リズムを整える。
- ・ケア方法や注意点を申し送りで共有し、職員間で対応を統一する。
- ・体調変化の兆候を記録し、早期対応につなげる。
- ・センサーや見守りロボットなどを活用し、心不全悪化の早期発見を可能にする体制を整える。

安心感を高める関わり：

- ・本人の訴えを否定せず傾聴し、ゆっくりと分かりやすい言葉で声かけを行う。
- ・できるだけ同じ職員が関わるよう調整し、生活リズムや関わり方を統一する。
- ・日々の状態や様子を家族に伝え、本人・家族双方の不安軽減を図る。
- ・不安が強い時間帯を把握し、事前に声かけや見守りを強化する。
- ・これまでの生活歴や好みを踏まえた声かけや関わりを行う。
- ・写真や馴染みの物を居室に置き、安心できる環境づくりを行う。
- ・否定や制止を避け、共感的な声かけを意識する。
- ・本人のペースを尊重し、急がせない関わりを行う。
- ・夜間不穏への予防として、日中の過ごし方から見直し、適度な活動で生活リズムを整える。
- ・ご家族と密に連携し、定期的な面会をお願いしたり、A さんの様子を報告したりする。

2. 同じ部署のスタッフから下記の質問・要望があったとき、あなたはどのような返答をするかそれぞれ答えなさい。（配点 2×3）

（1）特養の要介護 3 のお客様の排泄介助について、「トイレ誘導となっていますが、ほぼパット内で排泄されているのでトイレでの排泄はありません。おむつ（おむつ対応）に変えていいですか？」という質問があった場合。

＜採点ポイント＞

- ・本当に無いかどうかの事実確認
- ・時間を前後させて排泄介助をしたときはどうかのモニタリング実施
- ・ケア内容変更の会議（ケアマネ、看護師、家族等関係者への確認）の実施

（2）デイサービスのお客様について「徘徊がある方が来られると、付きっ切りになって現場がスムーズに運営できません。利用を断ってほしいです。」と言われた場合。

※認知症についての説明は行っているものとします。

＜採点ポイント＞

- ・どういうところでそのように感じるのか、課題の聞き取り ・私たちが出来るケア内容の整理
- ・妥協点の模索
- ・デイサービスの社会的役割の説明

（3）糖尿病で食事制限があるサ高住入居中の 63 歳女性のお客様に関して、「本人から、お菓子が食べたいと毎日のように希望がある。本人の希望をかなえてあげたい」と言われた場合。

＜採点ポイント＞

- ・本人の意向と病識の確認。
- ・糖尿病治療方針を医師、本人と相談。
- ・代替案の提案



3. あなたはデイサービスで責任者をしています。利用者数の増加に伴い、利用定員を12月から35人に見直しました。以下の情報をもとに、問いに答えなさい。(8)

【11月・12月の実績】

	11月	12月
営業日	21日	21日
利用定員	30人	35人
介護職配置基準	4人	(①)人
1か月の総利用者数	(②)人	570人
稼働率	90%	(③)%
介護職員常勤換算人数	(④)人	

【在籍スタッフの勤務時間数】

スタッフ名	週の出勤時間
A	40時間
B	40時間
C	16時間
D	24時間
E	32時間
F	28時間

【条件】

- ・介護職員配置基準：利用定員15人までは1人以上配置し、以後5人増えるごとに1人を追加する。
- ・常勤換算方法：職員の勤務時間合計を、常勤職員が1週間に勤務する時間（40h）で除し、職員数を常勤職員の人数に換算する方法

(1) 上の表の①～④にあてはまる数字を記入しなさい。 ※小数点第2位は切り捨て （配点1×4）

① 5	② 567	③ 77.5 △77.55、77.6、70%(0.7755を導きだしていれば)	④ 4.5
-----	-------	---	-------

- ① $(35-15) \div 5 = 4$ 人 $4 + 1 = 5$ 人
- ② $30 \text{名} \times 21 \text{日} = 630 \text{人(月のMAX利用者数)}$ $630 \times 0.9 = 567 \text{人}$
- ③ $35 \text{名} \times 21 \text{日} = 735 \text{人(月のMAX利用者数)}$ $(570 \div 735) \times 100 = 77.55 \dots \Rightarrow 77.5\%$
- ④ $16 + 24 + 32 + 28 = 2.5 + \text{常勤2名} = 4.5$

(2) 定員を増やすための準備が不足していたことから稼働率が低下し、スタッフからは「何をどうしていいかわからない」といった意見が出ました。定員を増やすことに対してあなたが行うべきだった行動を、「稼働率の維持」、「スタッフへの対応」の2つの項目に分けて、それぞれ記入しなさい。(配点1×2)

稼働率の維持	・ 居宅・利用者、利用者家族への広報活動 ・ 利用者一人ひとりの希望に合わせた利用プランの提示 ・ 定員増加によるサービス内容の充実（レク、リハなど）
スタッフへの対応	・ 定員増の目的・方針を「事前に説明」している ・ 業務内容・役割分担を明確にする視点がある ・ スタッフの不安や混乱を想定している ・ 人員配置・シフト・負担軽減への配慮が書かれている

≪知識問題≫ 62点

1. 認知症状のある高齢者とのコミュニケーションについて、以下の問いに答えなさい。(6) <コミュニケーション技術>

【問題】あなたは特養のスタッフです。入所しているC様（85歳、女性、アルツハイマー型認知症）に昼食を配膳しました。するとC様から「私、お金はこれしかないよ。足りるかい?」と、折りたたまれたティッシュペーパーを渡されました。

(1) C様に対して、あなたはどのように対応しますか。その理由とあわせて答えなさい。(配点2) ※行動だけは△

- ・ C様の自尊心を傷つけないように受入れ、安心してお食事を召し上がっていただくように促す。
 - ・ 不安感を与えないように、お金のことは大丈夫ですよと伝え、お食事の方に気持ちを持っていけるように声掛けを行う。
 - ・ お預かりしますね。と受け取ることで安心していただく。お客として扱うことでC様の尊厳も守ることが出来る。
- ※自尊心を傷つけない・尊厳を守る・不安感を与えない・安心してもらうなどの理由をかけて2点



- (2) 認知症ケアにおいて、良好な人間関係（ラポール）の構築は認知症の方の尊厳を守り、生活の質を築く基盤となります。ラポール構築に必要なことを答えなさい。
（配点 2）

- ・（共感）相手の立場になって、感情や状況を理解しようと努める。
- ・（受容）相手を評価・否定せず、ありのまま受け止める。
- ・相手に興味を持ち、その人らしさ（価値観、生活歴、興味など）を理解しようと努める。
- ・介護職自身も正直で、ブレない態度で接する。 ×信頼関係を築く

- (3) C 様のようなアルツハイマー型認知症の方へのコミュニケーション方法について、適切なものを 2 つ選び、番号で答えなさい。（配点 1×2）

- ① 情報の伝え方として選択肢をたくさん提示し、好きなものを選んでもらう。
- ② 相手を不安にさせないように、正面から目線を合わせて声をかける。 **コミュニケーションの技法**
- ③ 相手の話の腰を折らないように、うなずくことなく真剣に耳を傾ける。
- ④ 安心感を与えるために、相手の手をそっと優しく握る。 **コミュニケーションの技法**
- ⑤ 相手に納得してもらえるように誤りを指摘する

②	④
---	---

2. 介護保険制度について、以下の問いに答えなさい。（6） <社会の理解>

- (1) 介護保険制度について、正しいものを 1 つ選び、○をつけなさい。（配点 1×4） <社会の理解>

- ① 介護保険サービスを利用するには（ 国 、 都道府県 、 **市町村** ）に要介護認定の申請をしなければならない。
- ② 第 2 号被保険者は、市町村に住所を有する（ **40 歳以上 65 歳未満** 、 50 歳以上 65 歳未満 、 50 歳以上 75 歳未満 ）の医療保険加入者である。
- ③ 居宅サービスにおける住宅改修費は、生涯で（ 10 万円 、 **20 万円** 、 30 万円 ）までとなっている。
- ④ 介護支援専門員は介護保険法により定められた公的資格であり、（ 3 年 、 4 年 、 **5 年** ）ごとに資格の更新が必要となる。

- (2) 要介護認定の申請について、適切なものを 2 つ選び、番号で答えなさい。（配点 1×2）

- ① 第 2 号被保険者が要介護認定を申請する場合は、その原因である心身の障害が、特定疾病（16 種類）によって生じたものでなければならない。
- ② 認定の効力は、市区町村から認定結果が通知された日から発生する。 **申請日にさかのぼって**
- ③ 主治医意見書の作成にかかる費用は、申請者が全額負担しなければならない。 **公費（市区町村）**
- ④ 介護認定審査会は、一次判定の結果、認定調査票の特記事項、及び主治医意見書を総合的に判断して二次判定を行う。
- ⑤ 認定には有効期間があり、更新手続きは満了日の 30 日前から行うことができる。 **60 日前**

①	④
---	---

3. 介護にまつわる職種や用語の説明として、適切なものを 2 つ選び、番号で答えなさい。（配点 1×2） <介護の基本>

- ① 作業療法士は、身体機能に障害がある人に、医師の指示に基づいて運動療法や物理療法などを用いて基本的動作能力の回復を図る。 **理学療法士の説明**
- ② 医療ソーシャルワーカーは、療養上の世話、診療補助を行う。地域包括支援センターや市町村、保健所などに勤務する。 **保健師の説明**
- ③ ICF とは、生活機能という「人が生きることの全体像」を表すことで、プラス面もマイナス面も中立に捉える特徴がある。
- ④ エンパワメント・アプローチとは、利用者が持っている力に着目し、その力を引き出して積極的に利用・援助することである。
- ⑤ ノーマライゼーションとは、利用者が自分の権利やニーズを表明することが難しい場合は、介護福祉士などが代弁し、権利擁護に努める活動を示す。 **アドボカシー説明**

③	④
---	---

4. 移動や歩行に影響を及ぼす疾患について、あてはまる疾患名を下記の語群から選び、記号で答えなさい。（配点 1×4） <こころとからだのしくみ>

- ① （ **カ** ）歩き続けると足にしびれや痛みを感じ、休み休みでしか動けなくなる「間欠性跛行」を伴う。
- ② （ **ケ** ）歩幅が小さな小刻み歩行や手足の震え（振戦）、筋肉のこわばり（筋固縮）が見られる。
- ③ （ **ク** ）遺伝性の疾患であり、筋肉が徐々に萎縮し、やがて歩行困難となる。
- ④ （ **ア** ）筋肉を動かすための神経に異常が発生し、自力での運動が困難になる。

ア：筋委縮性側索硬化症 イ：正常圧水頭症 ウ：脊髄小脳変性症 エ：サルコペニア オ：慢性硬膜下血種
カ：脊柱管狭窄症 キ：頸椎症 ク：筋ジストロフィー ケ：パーキンソン病 コ：変形性膝関節症

5. 高次機能障害のある人に見られる行動として当てはまるものを 2 つ選び、番号で答えなさい。（配点 1×2） <障害の理解>

- ① 見当識障害から、自分のいる場所がどこかわからなくなる。 **認知症症状**
- ② 言語障害から、相手の話すことが理解できない。 **認知症症状**
- ③ 注意障害から、同時に 2 つ以上のことをしようとすると混乱する。
- ④ 失認から、それが何であるかを認識できない。 **認知症症状**
- ⑤ 社会的行動障害から、年齢や立場に合わない幼稚な行動をとる。

③	⑤
---	---

6. 住環境や福祉用具についての事例を読み、以下の問いに答えなさい。（6） <生活支援技術>

【事例】

M さん（83 歳、女性）は半年前に転倒し、右大腿骨頸部骨折により 3 ヶ月間入院していた。入院中にリハビリテーションを行い、立ち上がりや立位保持、座位保持は可能であるが、下肢筋力の低下などから歩行は不安定である。屋内は杖や手すりを用いて何とか歩行できている。



(1) 退院後の、Mさんが自宅で生活する上で想定される困りごとや注意すべき点を、理由も併せて答えなさい。(配点 2)

例：入浴時の困難→下肢筋力低下から、浴槽をまたぐ等の入浴動作がしづらい。など ※困りごとのみ△

- ・移動時の転倒リスク→ 筋力や体力の低下のため足が上がりにくく、自宅内の移動の際に小さな段差や敷居でつまずきやすくなる。
- ・掃除の注意点→ 床のごみを拾おうとするなど過度にかがんでしまった場合（股関節を90度以上深く曲げる）に、手術創部への負担や股関節脱臼のリスクがある。
- ・日中の覚醒と活動量の低下→ 長期の入院生活により生活リズムが崩れ、日中の活動量が減少し、夜間の睡眠障害やせん妄を引き起こす可能性がある。
- ・買い物や外出の制限→ 移動能力の低下により自由に買い物に出かけることが難しくなるなど生活範囲の狭小化や社会との接点が減少する。
- ・トイレ動作の困難→ 和式トイレの場合、過度な屈曲が必要となり手術創部への負担や股関節脱臼のリスクが高まる。
- 排泄が間に合わなくなる→ 歩行ペースがゆっくりになるため

(2) Mさんの入浴環境に関する次の文章のうち、誤りのある部分に線を引き、正しい語句に直しなさい。(配点 1×2)

① 浴室の入り口は開き戸にすることで開閉がしやすく、万が一浴室内で人が倒れた場合でも、ドアがぶつかって開けられないという状況を防ぐことができる。

引き戸 ○スライド式 ○折れ戸

② 床から浴槽の縁までの高さは60 cmにすると出入りしやすい。

30～40 cm ○膝下までの高さ

(3) 福祉用具について、不適切なものを2つ選び、番号で答えなさい。(配点 1×2)

- ① 現在、介護現場で導入されている介護ロボットには、移乗支援の装着型アシストスーツ や見守りシステム、コミュニケーションロボット等がある。
- ② 4点杖（多点杖）は接地面が広く安定するため、階段昇降での使用に適している。 階段では4つの脚が段差に収まりきらず、かえて不安定
- ③ 腰掛便座は、介護保険法における福祉用具貸与の対象である。 特定福祉用具のため販売対象
- ④ 介護保険法に定める福祉用具には、機能訓練のための用具も含まれている。
- ⑤ 工事を伴わない据置型の手すり、利用者が「貸与」か「販売」を選択することができる。

②	③
---	---

7. 次の事例を読み、以下の問いに答えなさい。(5) <こころとからだのしくみ>

【事例】グループホームに入所しているCさん（82歳・男性）は、大工として長年働いてきた経験があり、手先が器用な方です。入所後、他の利用者や職員に対して「俺が若い頃はこんなことやあんなこともできていた」、「こんな簡単なこともできないのか」といった発言が増え、周囲の入所者とも摩擦が生じるようになりました。最近、Cさんは居室で一人過ごすことが多くなり、レクリエーションにも参加しなくなりました。

(1) Cさんのカンファレンスで、「部屋にこもってはいは認知症が進行し、ADLも低下する。Cさんに活動的に過ごしてもらうためにはどうしたらよいか」と議題があがりました。あなたの提案を書きなさい。(配点 2) ※大工と関係のない内容は×

- ※大工の経験が生かせる機会と、そのことに対する評価や感謝が書かれていれば○
- ・大工の経験が生かせるような機会（例：壊れた椅子の簡単な修理、小さな棚の作成）を提供し、その技術を評価し感謝を伝える。
- ・物作りのレクリエーションや部活動を企画し、Cさんに講師を依頼する。
- ・Cさんが過去に関わった建築物の見学ツアーを企画し、他の利用者様も募って外出する機会を設ける。Cさんには案内と説明をお願いする。

(2) Cさんの言動は、マズローの欲求5段階説に分類されている欲求の1つに起因すると考えられます。最も当てはまる欲求を書きなさい。(配点 1)

承認欲求 承認だけでも○

(3) 記憶の特性と加齢の影響について、適切なものを2つ選び、番号で答えなさい。(配点 1×2)

- ① 「手続き記憶」は、加齢の影響を受けにくく、比較的衰えにくい。
- ② 「エピソード記憶」は、個人的な体験に基づく記憶であり、加齢による影響を受けやすい。
- ③ 「短期記憶」の保持能力は、高齢になっても若年期と変わらない。 加齢と共に低下する
- ④ 「展望的記憶」とは、過去に起こった出来事を思い出す記憶のことである。 未来の予定に関する記憶
- ⑤ 認知症の初期段階では、数十年前に身につけた仕事の技術（手続き記憶）から失われる。 末期まで保たれる

①	②
---	---

8. 認知症は原因疾患により出現する症状が異なります。認知症の疾患特性を考慮した対応について、以下の問いに答えなさい。(6) <認知症の理解>

(1) レビー小体型認知症を発症されているFさん（要介護2・男性）は夜になると落ち着きがなくなります。その点について困っているという家族から以下2つの質問がありました。あなたならどのようなアドバイスをするか答えなさい。(配点 2×2)

① 「夜中になると落ち着きがなくなり家の中を歩き回る。どう対応すればいいですか？」

- ・夜間徘徊しないよう、昼間に適切な活動や運動を取り入れ、生活のリズムを整える。 ×一緒に散歩してもらう
- ・不安を和らげるため、「明日は休みだよ」などと優しく声掛けし安心させる。など
- ・転倒しないように、寝室や廊下を足元がわかる程度に明るくしておく。 ・手すり設置や段差解消の提案。



② 「部屋の隅を指さして『あそこに知らない子供が座っている』と怯えることがある。どう接すればいいですか？」

- ・本人にははっきりと見えているため、否定せずに「私が見てきますね」などと受容的な態度で接する。 △同意するだけの対応
- ・部屋を明るくしたり、見間違いの原因となるもの（壁のシミ、影、服の吊るしなど）を取り除いたりして環境を整える。

※採点ポイント

夜間はレム睡眠行動障害による異常行動や徘徊が起きやすいため、安全確保が最優先。また薬に頼るのではなく、環境調整や生活リズムの見直し、安心感を与える声掛けが重要なケアのポイント。薬の調整は×

(2) 前頭側頭型認知症を発症している G さん（要介護 1・男性）は、最近他人の家の庭に勝手に入って花を摘んだり、毎日決まった時間に同じコースを歩き続けて途中で止めようとするとうるさく怒り出すため、家族が対応に困っています。あなたはどのようなアドバイスしますか。（配点 2）

- ・無理に止めると逆効果（パニックや暴力）になるため、本人の「こだわり」を否定せず、安全な範囲で習慣を続けられるよう見守る。
- ・社会的なルールを守ることが難しくなっているため、近所の人やよく行くお店に病気のことを事前に説明し、協力を得られるよう環境を整える。
- ・毎日同じ行動を繰り返す「時刻表的生活」を利用し、本人が納得しやすい一日のスケジュールを固定化する。

※採点ポイント

・脱抑制への理解 ・常同行動の尊重 ・非薬物療法の優先 ×包括へ相談 ×医療に繋げる

9. 疾患名と特徴・症状・原因について、正しい組み合わせを線でつなぎなさい。（配点 1 × 4）＜発達と老化の理解＞

- | | | |
|----------------|---|----------------------|
| ① メニエール病 | ・ | ・ 三大合併症（網膜症、腎症、神経障害） |
| ② シャイ・ドレーガー症候群 | ・ | ・ 頻脈・眼球突出・体重減少 |
| ③ 糖尿病 | ・ | ・ 回転性のめまい・耳鳴り |
| ④ 甲状腺機能亢進症 | ・ | ・ 起立性低血圧などの自律神経症状 |

10. 下記の説明文の（ ）内に適切な用語を答えなさい。（配点 1 × 4）＜複合問題＞

- ① 気道確保のために、傷病者の背部に回り、両方の手を脇の下から通し、片方の手でもう一方の手をつかんで、圧迫するように斜め上へすばやく突き上げる方法を（ **ハイムリック法** ）という。○腹部突き上げ法
- ② 家族や親しい人が亡くなって深い悲しみの中にいる人に対して、寄り添い、悲しみから立ち直れるようにする支援を（ **グリーフケア** ）という。ケアがなくても○
- ③ 失語症には、話がたどたどしくなるが比較的言葉の理解が保たれているブローカー失語と流ちょうに話せるが意味内容を伴わず、話し言葉や書き言葉の理解が困難になる（ **ウェルニッケ** ）失語がある。○感覚性
- ④ 成年後見制度は法定後見制度と任意後見制度にわかれ、法定後見制度は本人の判断能力の程度で、補助・（ **保佐** ）・後見の 3 つに分類できる。

11. 高齢者虐待について事例を読み、以下の問いに答えなさい。（5）＜介護の基本＞

【事例】 A さん（90 歳・男性）は、特養に入所しています。前立腺肥大症と認知症の既往歴があり、最近トイレで排尿をすませて居室に戻った直後にナースコールを押して再びトイレの訴えがある場合があります。ある日ユニットリーダーのあなたが早出で出勤すると、ベッド上で失禁し震えている A さんを発見し、ナースコールは A 様の手が届かない場所に置いてありました。夜勤スタッフの D さんに事情を尋ねると、「A 様が夜間に何度もコールを押すのでナースコールをベッドから離しました。夜間帯は訪室してトイレ誘導はしていました」との返答でした。

(1) このようなことを今後二度と起こさないために、ユニットリーダーとしてどのような再発防止策を講じれば良いか答えなさい。（配点 2）

- ・感情をコントロールできるようにアンガーマネジメント研修を行う。
- ・A 様がなぜ頻りにナースコールを押したのか（不安、体調不良、トイレのタイミングなど）を分析し、個別にケアプランを見直す。
- ・夜間帯の人員配置や業務量に問題がなかったか検討し、必要なら職場環境の改善を図る。
- ・どのような行動が虐待に当たるか虐待に関する研修を行う。 ・上司による抜き打ち巡回の実施。 ・外部研修の受講。
- ・離床センサーや睡眠スキャンなど見守りシステムを導入する。 ・夜勤明けヒアリングの定例化や面談を行う。 ×ナースコールは手の届く所におく

(2) 聞き取りを行ったところ、夜勤スタッフ D さんは A 様に対して「さっきもトイレに行ったから我慢して！」と怒鳴るような口調で対応をしていたという声があったので、これについて D さんを指導しました。このような行動は心理的虐待、身体的虐待につながる恐れがあります。このような身体拘束の一種を何というか答えなさい。（配点 1）

スピーチロック



(3) 夜勤スタッフ D さんに対して、自分の行動が虐待であると気づかせるにはどのように指導すればいいか答えなさい。(配点 2)

- ・あなたの意図に関わらず、A さんの権利を侵害し、心身に苦痛を与えたという事実は、法的に高齢者虐待に該当するということを伝える。
- ・もし D さんが、夜中に体が動かず、トイレに行きたかった時に、唯一の助けであるナースコールが奪われたらどんな気持ちになりますか？と問いかけ「怖い、悲しい」など感情の言葉を D さんから引き出し、A 様の心の痛みを自分のことととらえさせる。
- ・D さんの行動を紙に書きだしたり、口頭で伝えたりして「プロの介護職が高齢者に対して行っている構図」を客観的事実として気づかせる。
- ・今回は運よく A 様に怪我がなかったが、次はナースコールを求めて動かれ転倒し、死に至る可能性もあるという虐待の延長線上にある最悪の結果を想像させ、事の重大さを認識させる。 ○逆の立場にたって考えるように指導する。 ×研修を受けてもらう

12. 褥瘡について、以下の問いに答えなさい。(6) <発達と老化>

(1) 褥瘡の予防や防止策について、() 内に適切な語句を語群から選び、アルファベットで答えなさい。(配点 1×4)

- ① 車椅子座位時に仙骨部に圧力が集中しないように (C) のような体圧分散用具を併用するとよい。
- ② 長時間同じ体位をとらないように基本的に体位変換は (E) ごとに行う。
- ③ 血液循環を促すために、(H) にマッサージを行う。
- ④ 低栄養は褥瘡のリスク因子であり、特に重要な栄養素は (J) やビタミン C などである

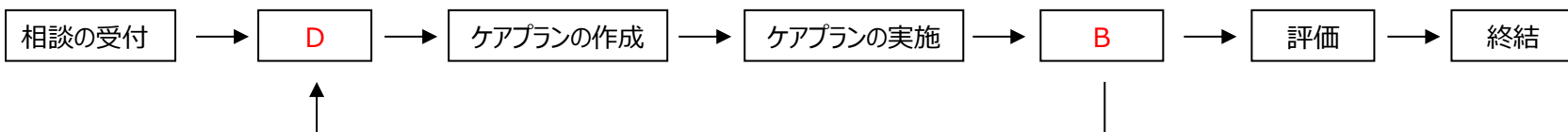
A. ナースコールパット B. 円座 C. エアクッション D. 1 時間 E. 2 時間 F. 3 時間 G. 足裏 H. 大転子 I. 前頭部 J. たんぱく質 K. 炭水化物 L. 脂質

(2) BMI の他に褥瘡の発生要因について、外的要因と内的要因を 1 つずつ答えなさい。(配点 1×2)

外的要因	身体的要因
例：体重による骨部分への持続的な圧迫 ・皮膚の摩擦 ・皮膚のずれ（せんだん力）	例：麻痺や意識障害により、体位変換が自力で難しくなる ・低栄養（やせ）・基礎疾患 ・易感染性 ・皮膚の浸潤 ・薬剤の影響 ・浮腫 ・加齢（皮膚の脆弱性）

13. ケアマネジメントを基に介護を実践していく過程について、以下の問いに答えなさい。(6) <介護の基本/介護過程>

(1) ケアマネジメントの手順として適切な語句を語群から選び、アルファベットで答えなさい。(配点 1×2)



A. ニーズ B. モニタリング C. サービスの提供 D. アセスメント E. 報告聴取 F. ヒアリング G. 認定調査 H. 同意 I. 説明 J 交付

(2) 介護過程の視点のひとつに ICF があります。ICF の構成要素とその内容（定義）の組み合わせとして適切なものを 2 つ選び、番号で答えなさい。
(配点 1×2)

- ① 心身機能：肢体の欠損や器官の変形などの、身体の解剖学的な部分 → 身体構造
- ② 身体機能：精神機能、感覚機能、運動機能などの、身体系の生理学的機能 → 心身機能
- ③ 活動：生活上の目的を持って行われる具体的な動作や行動（歩行、入浴、家事など）
- ④ 参加：家庭や社会の中での役割を果たし、関わること（就労、地域活動、趣味の集いなど）
- ⑤ 個人因子：家族や近隣、法制度など、個人の生活を取り巻く外部環境 → 環境因子

③	④
---	---

(3) あなたは特養の介護スタッフです。ケアマネジメントにおけるチームアプローチの実践について、介護職に求められている役割を答えなさい。(配点 2)

- ・日常生活の支援を行っている介護職は、利用者の生活状況の変化にいち早く気づくことができ、他の専門職に情報を提供することが出来る。
- ・日々のコミュニケーションを通じて利用者・家族との信頼関係を築き、本人の意向を尊重した意思決定支援をサポートできる。
- ・ADL や生活全体のニーズを多角的に把握し、他の専門職へ具体的な判断材料を提供できる。
- ・専門職で意見が分かれた場合、日々の会話から得た本人の価値観や好みを代弁し、ケアプランの方向性が「本人不在」にならないようにかじ取りをサポートできる。
- ・現場で発生した急な体調変化やトラブルを即座に共有し、看護師や医師の迅速な指示を仰ぐことでチーム全体の機動力を高める。
- ・ADL や口腔状態・食事量の変化を定量的に記録し、リハビリ職や管理栄養士が具体的な改善案を立てるための「質の高いエビデンス」を提供できる。

△看護師に報告する ×上司やリーダーに報告する